夜空の時代

観月　あき

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
夜空の時代

【Ｎコード】
Ｎ７０４８Ｕ

【作者名】
観月　あき

【あらすじ】
以前他サイトに載せたものに手を加えました。
暗喩のようなものがたくさん出てきます。
ダークファンタジー、を書こうとしてできた作品です。

碧(あお)、と彼の名を呼ぶことが、蜜樹(みつき)にはためらわれてならなかった。透明な不可視の月光が、神を貫く槍のように二人に突き刺さる。夜空の帳はヴェールのように薄く、蜘蛛(アラク)のつむいだ糸のようにふわりと揺らいだ。

闇に満ちている。とぷとぷと音のしそうな夜は、忍び寄った暗がりに、気付かず、引きずり込まれてしまう。

「蜜樹、どうかした?」

ヘリオトロープの深い色に染まった月が、碧の手に落ちる。彼の指先からは、涙ともつかぬ露がぽたぽた滴(したた)る。掬(すく)いとった水玉(すいぎょく)の欠片を、碧はそっと口に含んだ。

「碧、」

「こぼれているよ、蜜樹、僕らの――――」

砂を指の間から落としたように、流れる水を思わせる碧の声は、なめらかな絹のごとくするすると広がる。

「気をつけないと、帰れなくなる」

ふと蜜樹が目を向けると、緑青(ろくしょう)の顔料をとかした碧の瞳が、飴玉みたいに小さな空の月を見た。

「僕らの聖地にさ」

碧は、言った。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7048u/

夜空の時代

2011年10月9日10時25分発行